JGC
JUNIOR GOLFER CONFERENCE OF JAPAN

第 45 回　ジャパンゴルフフェア 2011
JGC ジュニア育成シンポジウム

ジュニアスポーツ「勝利至上主義」の危険な暴走　保護者・指導者 そしてメディアへの熱き警鐘

開催日時；2 月 19 日（土）13：30 ～16：00（受付開始 13：00）
会　　場；東京ビッグサイト 会議棟 6 階 606 会議室
主　　催；NPO 法人 日本ジュニアゴルファー育成協議会
定　　員；先着 100 名様

講師；スポーツパーソナリティー 永井洋一氏
1955 年、横浜市生まれ。
成城大学文芸学部マスコミュニケーション学科卒業。
大学在学中から地域に根ざしたサッカークラブの創設・育成に関わり、その実績をかわれて日産 FC（現横浜 F・マリノス）の下部組織創設に参画。現在も NPO 港北 FC（横浜市）の理事長として組織運営・育成指導に尽力する。
88 年から現場の経験を生かしてジャーナリスト活動を開始。サッカーの他、コーチング、トレーニング、スポーツ医科学、教育などの分野で幅広く取材・執筆、講演活動を展開する。著書に『絶対サッカー主義宣言』（双葉社）といったサッカー関係の著作とともに、ジュニア指導を見詰めた著書『スポーツは「良い子」を育てるか』（日本放送出版協会）、『少年スポーツ　ダメな指導者　バカな親』（合同出版）など。

ラグビー、サッカー、そしてゴルフ。
これらのスポーツは、1800 年代にイギリスにおいて近代スポーツとして成長、発展した歴史を持つ。
当時のイギリス人は、こういったスポーツを通じて、広く国際社会で通用する崇高な人間力を身につけていった。そこには「勝ち負け」の要素だけではなく、人としてどうあるべき、という高い哲学がスポーツを通じて身につく環境が伴っていた。

特にサッカーという競技は、幼少期から気軽に始められ、しかも世界の舞台へと続く道が途切れることなく誰にでも用意されている、極めて恵まれた競技種目である。しかし、今、このサッカー界において、本来のスポーツ哲学が全く無視された指導が全国の至る所で見受けられる。

その背景にあるのは「勝利至上主義」　　勝てば何でも許される、という危険な発想。

そもそも日本のサッカー競技力は世界的に見てまだまだ弱小である。
弱小であるが故に世界のあらゆる成功例を取り入れ、模倣して成長してきた。クラブ運営論、プロリーグの運営論、指導者育成論。世界から先進的な「イイトコ取り」をしてきたこのサッカー界でさえ、スポーツ文化が崩壊を始めているのだ。

しかもこれはプロスポーツの世界だけではない。
カレッジスポーツ、そしてジュニア・ユース世代の指導現場においても、歪んだ「勝利至上主義」の元で、保護者も、指導者も、およそ「文化的」とは言い難い指導法を黙認・奨励さえしている事実。そしてこれを助長するスポーツメディアの歪んだ報道姿勢。

サッカー指導の現場での体験から他のジュニアスポーツへの指導法に興味を持ち、そこで見たもの聴いたこと、即ち、子供たちのスポーツ活動を取り巻く環境の現況、関わる大人たちの実態、そして問題解決への提起を 3 部作としてまとめた。
「スポーツは良い子を育てるか」
「少年スポーツ ダメな指導者 バカな親」
「賢いスポーツ少年を育てる」

これらの著作を通じて、日本のジュニアスポーツ指導論に異を唱え続ける永井氏から、ジュニアゴルファーに接する皆さまへ、熱いメッセージをお伝えします。

ゴルフがスポーツ文化として今後も発展するために・・・

※講演終了後に会場にてサイン会を実施します